

HPVワクチンの「定期接種」や、定期接種の機会を逃した世代を対象

ワクチン接種のススメ

子宮頸がんの予防は、ヒトパピローマウイルス（HPV）ワクチンと検診とを合わせるとより安心になります。

にした「キャッチアップ接種」を受けられる方は、お住まいの市町村から接種の案内状が届いたら該当期間に必ず全3回の接種を受けましょう。それ以上の年代の方には案内状は届かず、費用も自己負担になります。が、万全を期すためにも接種をお勧めします。

ワクチン接種は「1次予防」、検診は「2次予防」です。何度もお伝え

検診もお忘れなく

子宮の出口は子宮頸部を覆う粘膜で守られています。女性ホルモンの多い年代は、この粘膜で覆われない「子宮腔部びらん」という部分があります。実はこの部分が性交渉などで様々な病原体に感染しやすいのです。もし感染した病原体がHPVなら、持続感染で子宮頸がんに進展する可能性が高まります。

感染しやすい部分

定期的な検診を欠かさなければ、がん状態の

早期発見・早期治療を

そもそも子宮頸がんは性交渉でのHPV感染が原因ですので、性交渉の経験のない方には検診は原則ありません。

しているように、現在のワクチンの効果は100%ではありません。このためセクシャルデビュー後は、定期的な子宮頸がん検診が欠かせません。子宮頸がんはHPVに感染した後、ゆっくりと進行します。で、検査は最低でも2年に1度、できれば毎年受けましょう。

さらに手前に変化を見つけることが可能です。早期発見、早期治療につなげられれば子宮頸がんは「最も予防しやすいがん」になります。

check★



〈産婦人科〉

真理子レディースクリニック

☎023-632-0666

山形市小姓町 6-35

医療事務さん
募集中

詳しくは問合せ下さい。

